



# こうべ森の学校だより

## No.80 2018年1・2月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会  
発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1  
神戸市森林整備事務所内  
Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

### 平成30年を迎えて

代表 藤原恒夫



明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

遅まきながらの御挨拶になりましたが、『森学だより』初年発行が2月なのでこの辺りは大目をお願いします。

さて、「100年前の六甲山はハゲ山だった」との合言葉で生まれた我が『こうべ森の学校』も、今年で15年目を迎えました。発足当時から、既に六甲山はかつてのハゲ山の面影もないくらい立派な緑の山になっていました。しかし、そのまま放置していると六甲山も徐々に荒れていきます。この15年間、我々森学は間伐、除伐、下草刈りと山の手入れをしてきました。

今、再度山周辺を眺めて何処が変わったのでしょうか？何が変わっていないのでしょうか？活動していてもなかなか実感が湧かないのが正直なところですね。TV番組のような劇的に「ビフォアアフター」を楽しむことは出来ません。外に向かって、我がパフォーマンスをアピールしてもイ

ンパクトは小さい。森林ボランティアとは、何とも地味な活動なのでしょう。と、新年早々からテンションの下がる話になって申し訳ありません。

しかしながら、この地味な活動は社会が要請しているのです。我々はそれに応じる形で、暑い日も、寒い日も山に入っています。それはやっぱり楽しいからです。15年間継続してきた結果、今の森の健康が守られています。かけがえのない森を次世代に繋げています。生物多様性にも貢献しています。そして何よりも、市民がその恩恵に預かっています。

今年も誇りをもって、楽しく山の手入れをしましょう。動機、目的は問われません。結果は約束されています。木を伐るのが楽しい。自然の中に居るだけで気持ちがいい。仲間たちと一緒に活動をしたい。健康のためになる。只々、暇つぶしになる。もちろん自然環境を保護したい等。いずれにしても、結果的には社会貢献につながります。聖火リレーの様な華やかなゴールはありませんが、先輩から引き継いだバトンはしっかり次世代へつなぎましょう。

皆さん、肩の力を抜いて！森の中へ！



1月13日 例会の集合写真

## 森の学校で学んだ事

スタッフ 米山 充子



10年程前から夫婦で六甲山系を中心に山歩きを始めました。

同じルートを何度歩いていてもいつも違う表情で私を楽しませてくれる、そんな山に感謝して何かをしたい・・・という思いで山のボランティアに興味を持ちました。

ボランティアに参加するまでの私の『森』のイメージと言えば、沢山の木が並び立ち、木々には緑の葉が鬱蒼と生い茂っている・・・と、いうものでした。

ところが、ボランティアでは森の木を切る??何で?切っても良いの?

森の学校に初めて参加した時に、ノコギリ、ハサミの使い方に合わせて「木を切る事」について教えて頂きました。

常緑樹を伐採する事で森に陽が差込み、新しい木の芽が

育ち・・・本来有るべき森の姿に戻る。森が本来の姿を取り戻す事でそこに居るべき生物が戻ってくる・・・自然界の当たり前の事を改めて理解しました。

そして、自分達が作業をした現場が数年経ち、森全体に太陽光が差込み、気持ち良い風が通る森に変身した時に私はとても感動した事を今でも覚えています。

又、ただ木を切るだけでは無く、少しでも早く自然に還れるように枝葉を出来るだけ細かく刻む。手間の掛かる作業でハサミを持つ手が痛くなりますが、それさえ今では楽しい作業です。

今では山を歩きながら「あの集積は美しい!」だとか、「この木は切った方が良いのになあ」等々と思いながら山を歩いています。

これからも引き続き上手に山と共生していきたいと思っています。

### 豚汁のふるまい



アツアツの豚汁

12月17日の例会で恒例の豚汁の振る舞いがありました。この日ばかりは、作業を早めに切り上げて美味しい豚汁に舌鼓を打ちました。

### ぜんざいのふるまい



火のそばから離れられないです

1月の例会でぜんざいの提供がありました。会員さんが持ち寄った餅を再度山の炭火で焼き上げて、温かいぜんざいをいただきました。

### クリスマスリースの制作

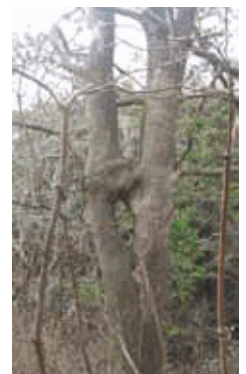


材料は再度産のスギの葉

12月17日午後から、恒例のクリスマスリースの制作がありました。皆さん工夫を凝らして素敵な作品ができました。

### 連理の木

山を歩いていて、こんな面白い形の木を見たことはありませんか。再度山でよく見かけるソゴゴですが途中で二股になって、上の方でまたくっついています。木と木や枝と枝が融合している様子が吉とされ、縁結びや夫婦円満を象徴しているとのことです。



ソゴゴの連理

### 今年の活動を安全祈願



安全祈願

1月9日、今年の森学活動の安全祈願を行いました。三木さんの司会・進行、森谷さんの祝詔で執り行われ、参加者全

員で南南東方向を向き、敷地の四隅や付近の大木に清め塩と御神酒を撒き、改めて“安全”の二文字を胸に刻み、全員がこの一年間安全に活動できることを願いました。付近では、綺麗な氷柱や霜柱も顔をのぞかせていました。

### 魚屋道にてヤマザクラを植樹



甲南女子大学での集合写真

1月27日東灘区の魚屋道登山道にヤマザクラを80本植樹しました。こう

べ森の学校から6名が参加、カナディアンアカデミーの生徒さんはじめ、多くの方に植樹を体験していただきました。

# 東お多福山草原保全 10 周年記念シンポジウム / 日本生態学会近畿地区会公開講座

## 身近な草原の魅力～生物多様性を次世代に伝える民官学の協働のあり方～



2月17日(日)兵庫県立のじぎく会館にて「東お多福山草原保全10周年記念シンポジウム / 日本生態学会近畿地区会公開講座」が開催されました。



武田会長

東お多福山草原保全・再生研究会の武田義明会長の挨拶の後、近畿各地の草原の事例報告がありました。

- ① 都市の遊休地に残る小っちゃい半自然草原の意味：吹田市の千里ニュータウンの例 横川昌史（大阪市立自然史博物館 学芸員）
- ② 伝統あるゴルフ場の草原生植物の生育環境としての可能性 松村俊和（甲南女子大学 准教授）
- ④ 都市近郊で管理放棄された半自然草原の再生～東お多福山草原の保全・再生活動10年の効果の検証 橋本佳延（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）
- ⑤ 都市近郊の水田生態系における里草地の草原生植物の多様性 丑丸敦史（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授）



意外な場所に様々な植生があり、人間との関りについて、とても興味深いお話を伺うことができました。

続いて行われたパネルディスカッションでは「都市近郊で大規模草原の生物多様性を保全するには？～六甲山地東

お多福山草原を150年後に残すために民官産学ができること～」というテーマで、六甲山地東お多福山草原における10年間の保全活動を具体例



道木所長

として民官学の取り組みを振り返るとともに、これからも保全と活用の取り組みを発展しつづけるために必要な協働のあり方について活発に意見交換がされました。



桑田副会長

コーディネーターは橋本佳延（東お多福山草原保全・再生研究会 副会長 / 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

パネリストは次の方々でした。

- 桑田 結（東お多福山草原保全・再生研究会 副会長）
- 相良育弥（淡河茅葺き屋根保存会くさかんむり 代表）
- 横川昌史（大阪市立自然史博物館 学芸員）
- 道木柳太（神戸市森林整備事務所 所長）
- 竹村忠洋（芦屋市教育委員会社会教育部生涯学習課 学芸員）
- 小谷寛和（兵庫県神戸県民センター 神戸魅力づくり参事）
- 小舟美帆（環境省近畿地方環境事務所神戸自然保護官事務所 自然保護官）

この日は220名もの方が参加され、市民の皆さんの関心を高まりを実感しました。

この貴重な自然環境を子孫に残すため、150年先を見据えて活動を続けたいと思います。



■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
12月17日(日)	71名	小林さん	8名	40名	9名	5名
1月13日(土)	55名	東郷さん	18名	15名	—	7名

お知らせ・掲示板

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次の開催予定日は3月25日(日)  
(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ

次の開催予定日は3月24(土)  
(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)をご利用ください。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)は12月から3月まで運休しております。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

- ・月例会 3月10日(土)・4月15日(日)  
午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。
- ・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

**編集後記** 毎日寒い日が続きます。この冬は特に最強寒波が何度も押し寄せて、ただならぬ寒さを経験しています。

1月27日(土)には神戸市東灘区で「岡本(ほくら～ととや)桜回廊づくりプロジェクト」第3回ヤマザクラ斉植樹会が行われました。当日も冷え込んで雪が降るなか、すでに薄く積もった雪の残る山道を上がっていき、植樹というなかなかできない経験ができました。百人にも及ぶ参加者は、森学の有志をはじめとする山作業のベテランから高校生といった若い人々まで幅広く、参加するこちらが元気をいただいた感じです。寒かったけれど楽しかった一日でした。

わたくし事になりますが、1月29日から2月2日まで奄美大島に旅行してきました。奄美大島も寒波の影響でかなり冷え込んでいました。気温を見るかぎりでは関西よりはずっとましのように思えますが、意外と風がきつくて体感的にはかなり寒く感じられました。金作原(きんさくばる)という原生林を散策するガイドツアーに参加して案内していただきました。ここは昨年県立公園から国定公園に指定が変わり、観光の目玉になっています。

「ここは照葉樹林の最終形態です」と認定ガイドさんが説明してくれましたが、本当に美しい森でした。行ったのが1月のせい、照葉樹林というわりに緑が若く、木の葉のあいだからきれいに陽ざしが透けてさしこんでいます。林

床にはササなどの密集した下映えはなくすっきりときれいで、空間がたっぷりと感じられ、色と光のグラデーションがとても



ヤマザクラ植樹記念石碑設置班の皆さんきれいに感じられます。6割ほどがブナとブナ科のカシですと言われたのにも驚きました。なんとなくブナというのはかなり寒冷な地方の木だと思っていたんですが、こんな南の多雨多湿の島にも育っているんですね。マテバシイやスダジイなどのシイの実やいろんなドングリの実が豊富にあるおかげで、いろんな動物が育っているそうです。アマミノクロウサギもウサギにしては珍しくドングリが大好きだそうです。

ほかにも奄美特有のおもしろい植物をたくさん紹介していただき、本当に楽しくすごせました。知らない土地に行って知らない森を歩いてみるのはとてもいい経験でした。今回の金作原歩きでは、この森がこんなにすっきりと美しく見えるのはヒサカキが一本もないからでは・・・とふと思いました。やっぱりヒサカキをしっかり除伐することが美しい森をつくる第一歩になるかもしれません。(佐脇 遥子)